

ブレイクアウトと時間帯の「真実」

なぜ同じチャートパターンなのに、伸びる時とダマシになる時があるのか？



成功 (Success)



ダマシ (Fake-out)



「あれ？さっきブレイクしたのに...」

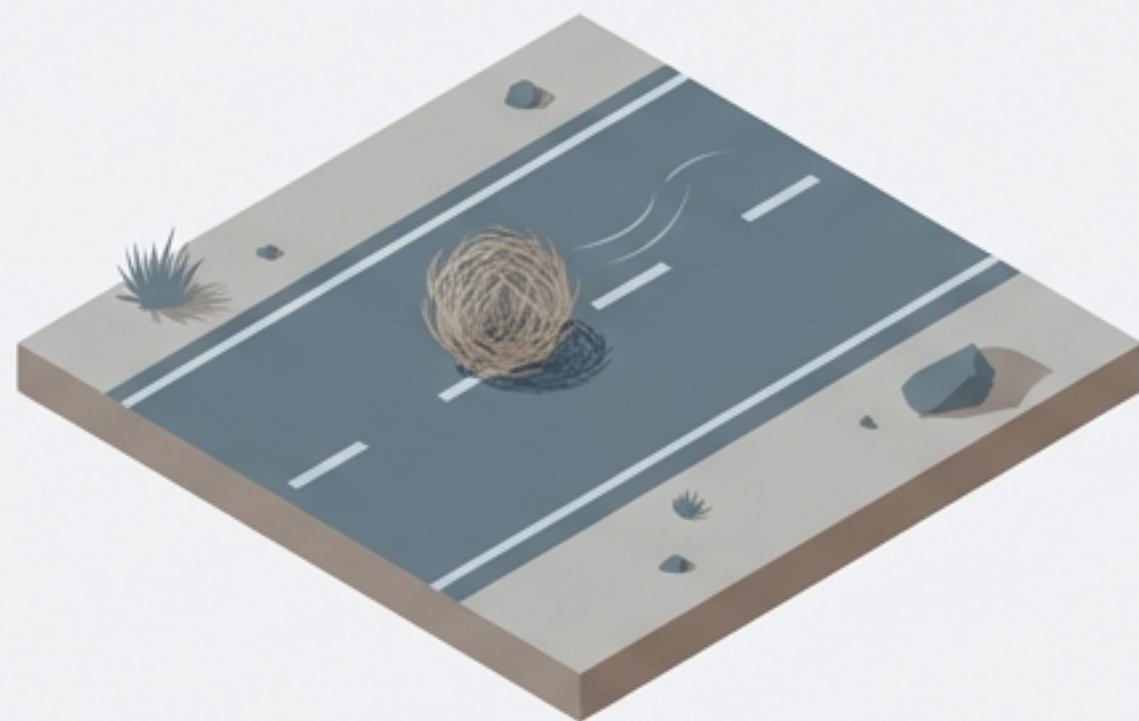
形だけ見て「よし、ブレイクした！エントリー！」と飛び乗り、秒で戻されて損切りになる経験。君にもあるのではないだろうか？

実は僕もFXを始めた頃、朝6時に「きれいなレンジブレイク」を見つけて飛び乗り、30分後には狩られた経験がある。

それは運が悪かったわけではない。
「魔の時間帯」に手を出していたからだ。

チャートの形ではなく、誰が取引しているか

時間帯によって変わるのは「方向」ではない。「燃料（流動性）」だ。



ゴーストタウン（流動性 低）



大都市（流動性 高）

- 流動性 (Liquidity):
市場の資金量

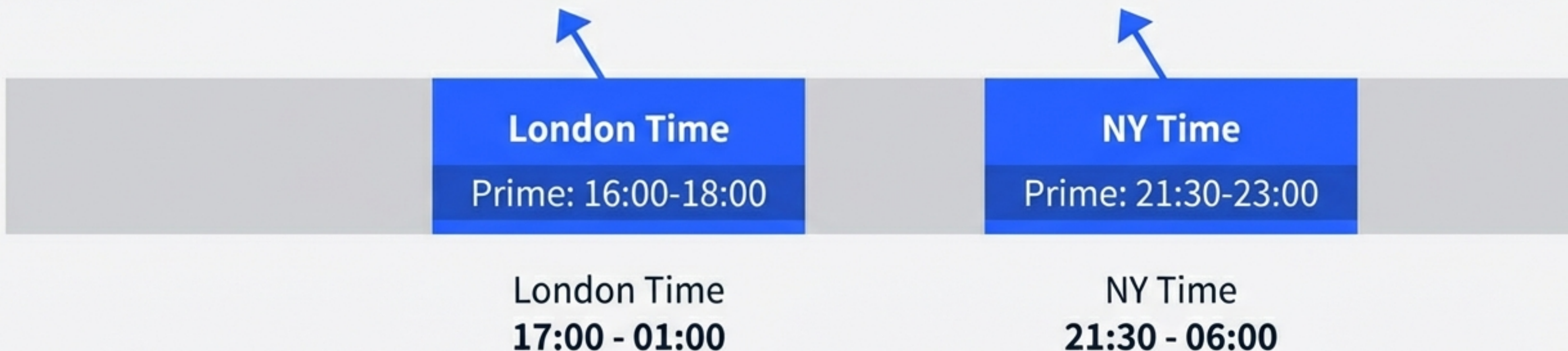
- 参加者層 (Participants):
実需中心か、大口投資家か

- ポジション調整 (Adjustments):
利確や損切りの動き

ブレイクが加速する「高勝率ゾーン」

欧州の大口投資家が参入。
一気に流動性が増え、加速しやすい。

世界最大の市場。
ここでもブレイクは伸びやすい。

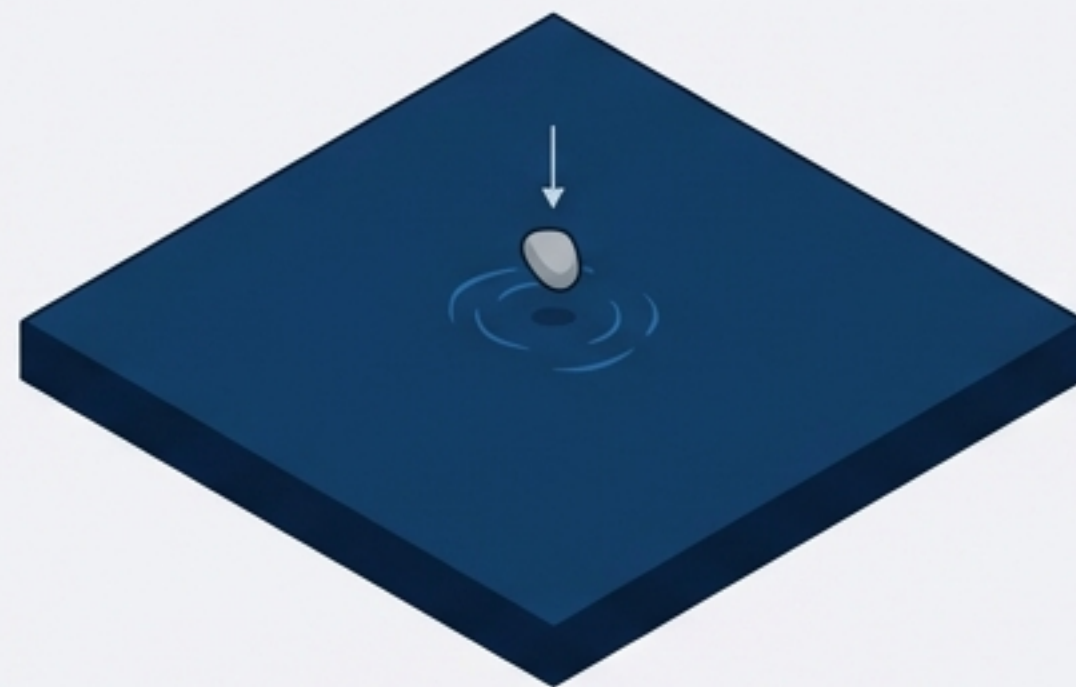


参加者が多い = 勢いがつく = ダマシになりにくい

失敗しやすい「魔の時間帯」



低流動性：少しの注文
で価格が飛ぶ



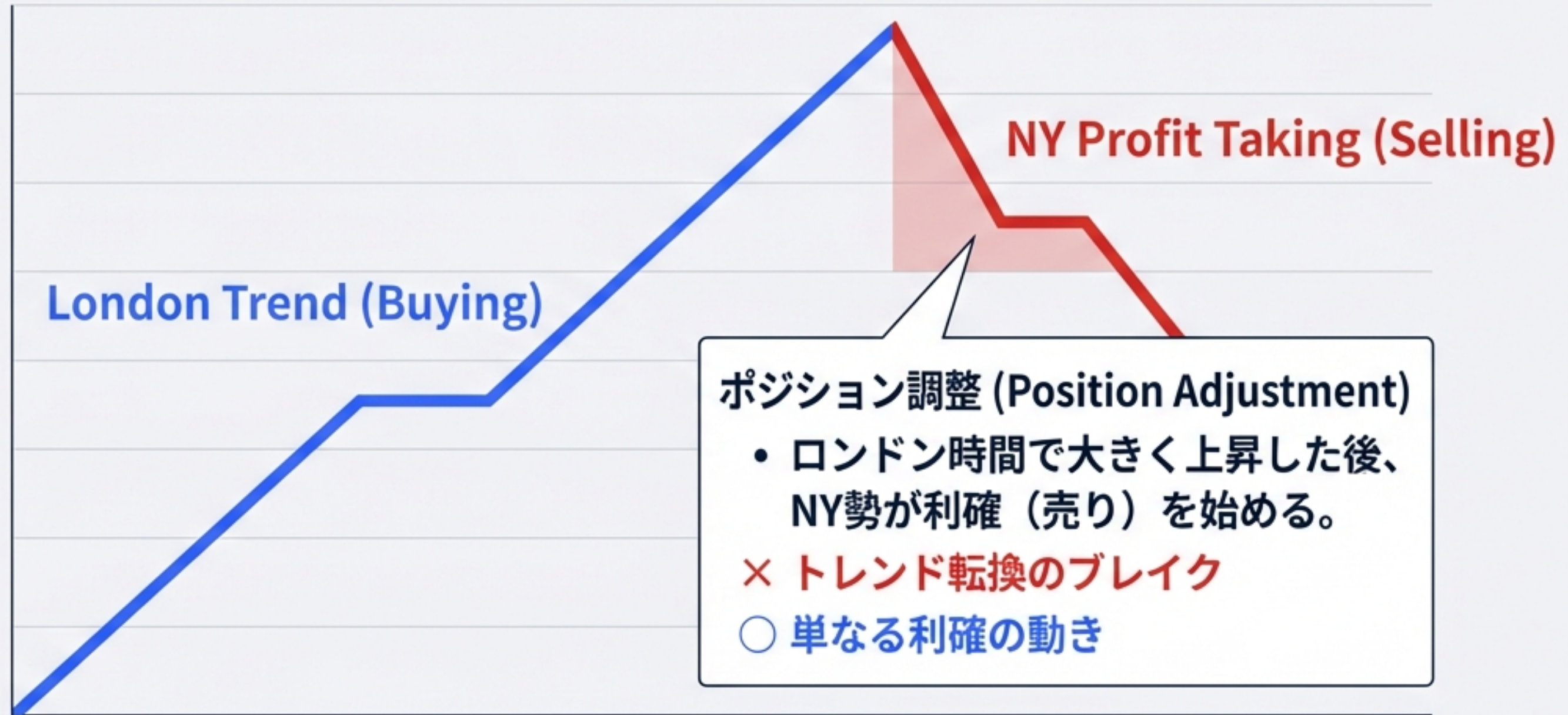
高流動性：トレンドには
大きな力が必要

The Traps

1. 早朝 (05:00-08:00):
参加者が少なく、継続しない。
2. 東京昼休み (12:00-13:00):
流動性が低下するエアポケット。
3. 市場の変わり目: 谷間の時間。

流動性が低いと、本物の需給変化ではなく、単発的な注文で「ブレイクしたように見える」だけ。これが**ダマシ**の正体。

活発な時間帯にも「罠」はある



大きなトレンドの途中には、必ず整理（利確・損切り）が入ることを忘れない。

優先順位を間違えるな

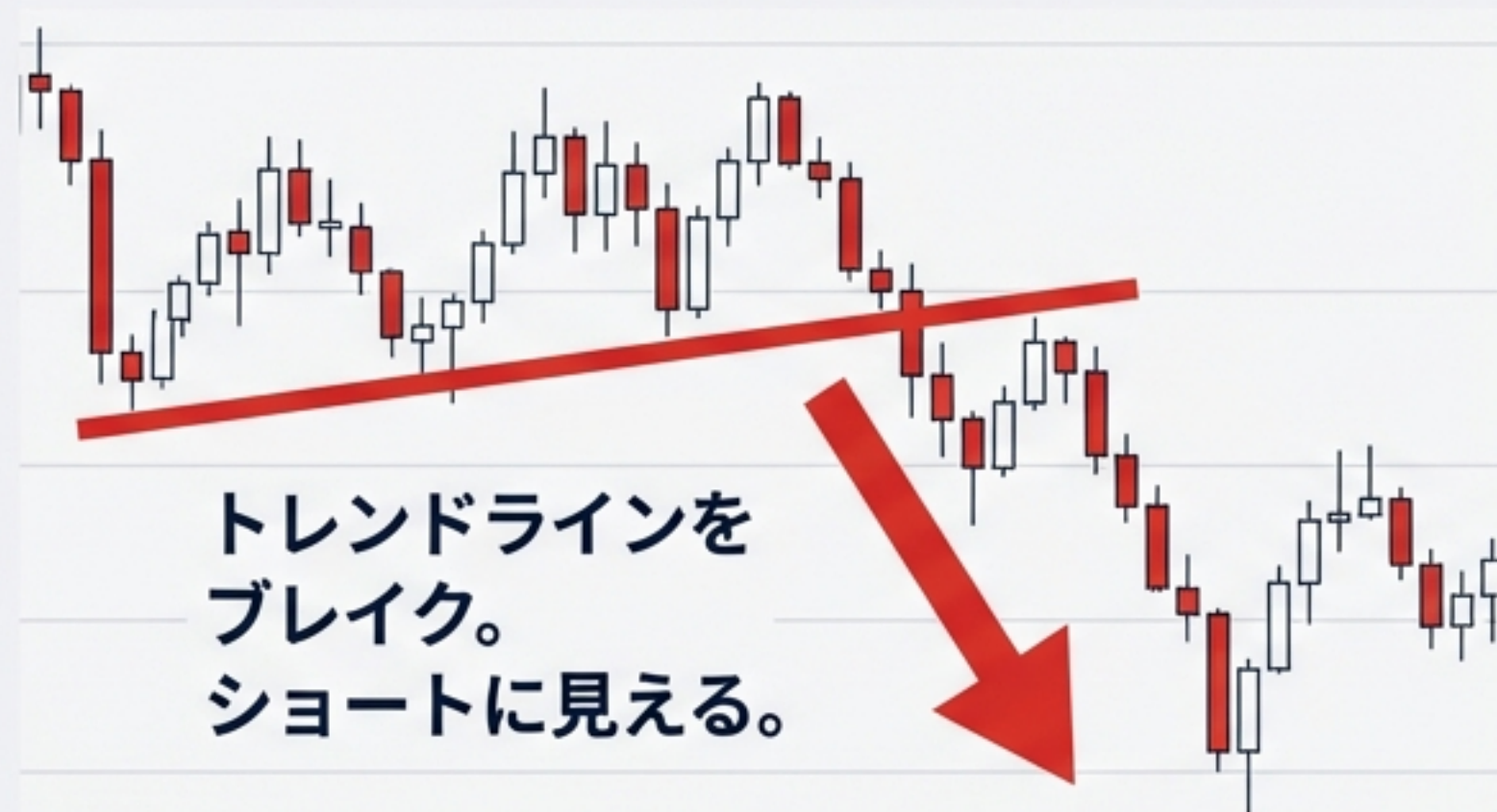


“時間帯は「加速装置」であり、「ハンドル」ではない。”

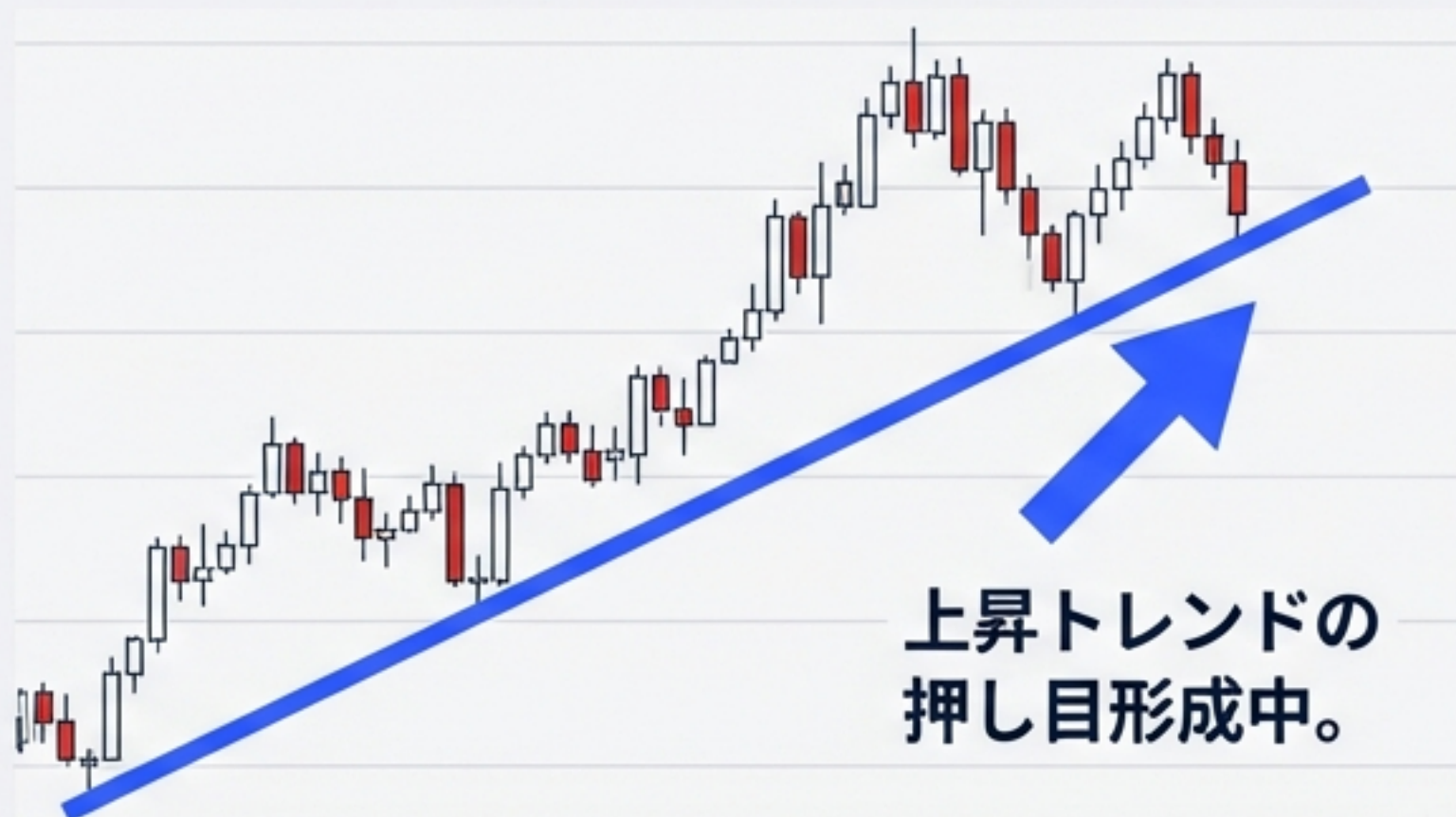
時間帯が完璧でも、上位足の環境が悪ければ負ける。逆に環境が良ければ、時間帯は多少ズレても勝てる。

失敗事例：USDJPYの罠

4時間足 - 4H

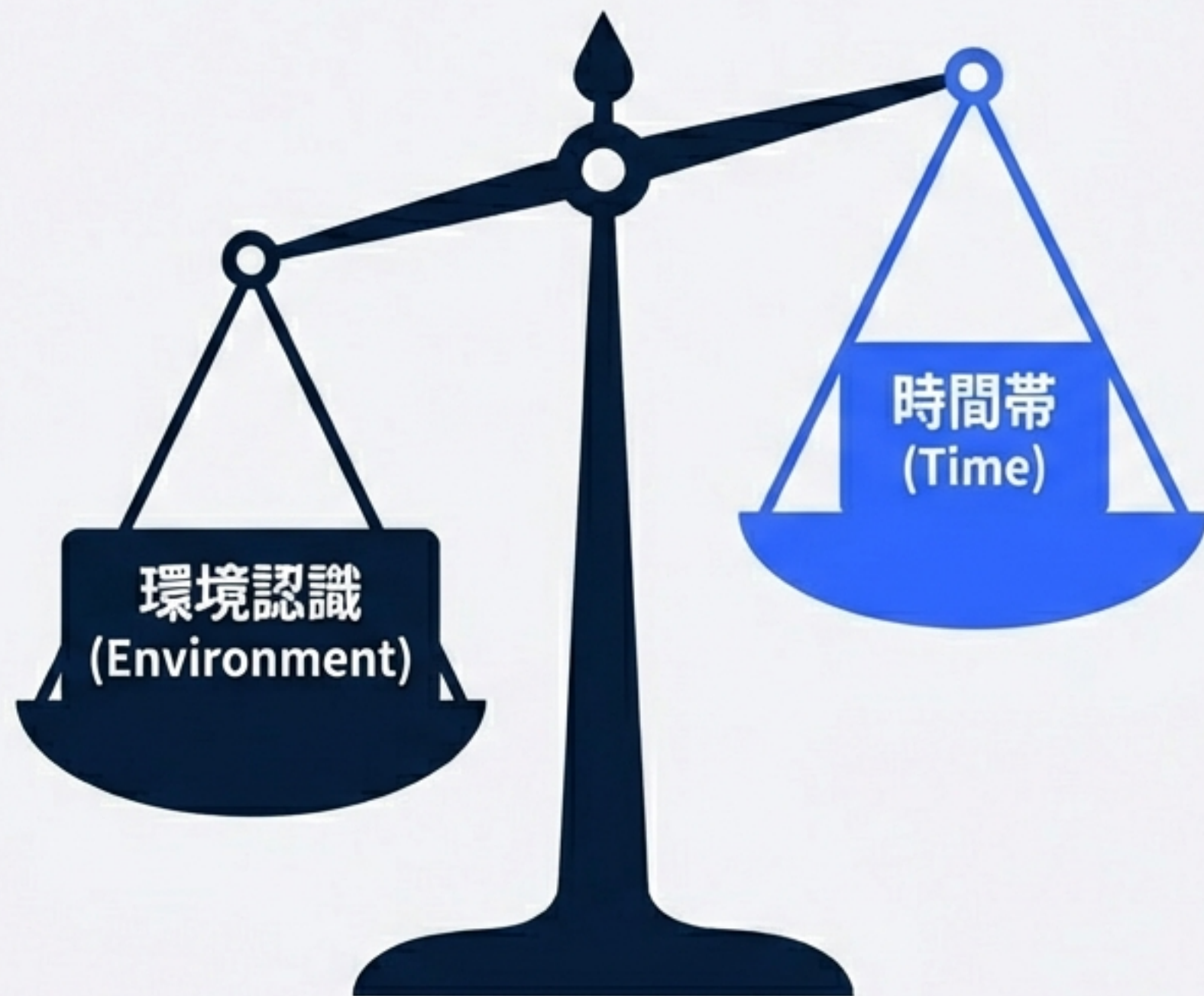


日足 - Daily



**結論：4時間足のブレイクは、日足の上昇トレンドに吸収される。
これは時間帯のせいではなく、環境認識のズレ。**

スイングトレーダーの「時間」との付き合い方



1. 環境が9割

日足で明確なトレンドが出ていれば、時間帯はそこまで気にしなくていい。

2. 補助として使う

エントリー後の「初動の速さ」を確認するために使う。

3. 完璧を求めない

「ロンドン時間じゃないから見送る」は機会損失。チャンスなら打つ。

時間帯を「守り」に使うテクニック



初動確認 (Initial Speed Check)

流動性が高い時間にエントリーできれば、サクッと含み益が乗り、精神的に楽になる。

逆風想定 (Anticipating Headwinds)

NYクローズ前（朝6時頃）は利確が出やすい。
「一時的に戻されても焦らない」という心構えができる。

まとめ：時間帯に振り回されないために



流動性＝燃料

ロンドン・NYは加速しやすいが、方向は決めない。



早朝＝ダマシ

参加者が少ない時間のブレイクは疑ってかかる。



絶対ルール

上位足（日足）＞
セットアップ（4時間）＞
時間帯。



マインドセット

時間帯は「おまけ」。
環境認識さえ合っていれば、君は勝てる。

焦らず、環境を見よう



「時間帯を完璧に極めないと勝てない」なんてことはない。
肩の力を抜いて、まずは大きな流れを味方につけよう。

君のトレードがうまくいくことを応援しているよ！